

# 令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

特定非営利活動法人ま・わ・た

## 1 事業の成果

昨年度同様、指定管理者制度に基づく「真岡市市民活動推進センターの管理運営」を団体運営の中核に据え、「民間支援組織として、営利を目的としない社会に貢献する活動を行っている個人や団体に対して、その活動や支援を行い、市民の自主的な活動による豊かな市民社会の発展に寄与することを目的とする」という設立目的のもと、事業を展開した。

真岡市市民活動推進センターの管理運営では、他団体と協力・協働した事業も展開することができた。フードバンク事業では補助金を確保し、物価高や米の不足する中、食品の配布を継続することができた。福祉事業所運営事業では、「多機能型事業所そらまめ」事業所の移転、市施設への出店など大きな転機となった。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
①市民活動に関する情報の収集と提供に関わる事業	A.各種イベントにおける広報	通年	市民活動推進センター	会員2名	災害支援団体および被災者	0
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
②市民活動に関する相談、活動促進のための調整に関わる事業	(B.に内包)	-	-	-	-	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
③市民活動における人材育成に関わる事業	(B.に内包)	-	-	-	-	-
	(C.に内包)	-	-	-	-	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
④市民活動における多様な主体間の交流・連携の促進及び支援に関わる事業	B.講師派遣事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	0
	C.市民活動団体との共催事業	8/21	二宮コミュニティセンター 調理室	11名	「はが路100km徒歩の旅」 参加者	0
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
⑤市民活動に関する調査研究及び政策提言に関わる事業	(D.に内包)	-	-	-	-	-

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
⑥市民活動の拠点に関する施設管理運営事業	D.真岡市市民活動推進センターの管理運営	通年	市民活動推進センター	職員8名	一般市民、登録団体・個人ほか	15,920
⑦高齢者・障がい児者・子どもの福祉向上に関する事業	(C.に内包)	-	-	-	-	-
	E.フードバンクに関する事業	通年	真岡市内	会員一般18名	一般市民	3,445
	(F.に内包)	-	-	-	-	-
⑧まち・むら活性化に関する事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑨文化・芸術・スポーツの振興に関する事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑩自然環境への理解及び環境保護の意識を高める事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑪災害発生時の救援及び被災地域の復興に資する事業	(A.に内包)	-	-	-	-	-
	(D.に内包)	-	-	-	-	-
⑫国際協力、国際交流事業	(E.に内包)	-	-	-	-	-
⑬男女がともに尊重し合う社会づくりに関する事業	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	実施なし	-
⑭地域社会における学びの場づくりに関する事業	(D.に内包)	-	-	-	-	-
⑮障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービスならびに一般相談支援事業	F.福祉事業所運営事業	通年	真岡市内	職員9名	障がい児者、一般市民	40,357
⑯その他この法人の目的を達成するために必要な事業	(A.に内包)	-	-	-	-	-

A.～E.については、次ページ以降で報告するものとする。

- A. 各種イベントにおける広報
- B. 講師派遣事業
- C. 市民活動団体との連携・共催事業
- D. 真岡市市民活動推進センターの管理運営
- E. フードバンクに関する事業
- F. 福祉事業所運営事業

### 3 事業の詳細

#### A. 各種イベントにおける広報

本年度は、令和6年1月に発生した能登半島地震の被災地支援のため、令和5年度から引き続き、真岡市市民活動推進センターに募金箱を設置させてもらい、寄付を募った。また同年8月の能登豪雨に際しても、支援金募集を行った。

災害支援のための募金活動 実施概要

イベント名	募金額	寄付先	備 考
令和6年能登半島地震	1,729円	とちぎコミュニティ基金	支援金
令和6年能登半島豪雨	2,000円	とちぎコミュニティ基金	支援金

#### B. 講師派遣事業

地域からの要請などにより、当団体役職員を講師として講座を開催し、市民活動を理解・促進するための一助とする目的に実施しているが、本年度は要請等がなかったため実施されなかった。

#### C. 市民活動団体との連携・共催事業

市民に必要とされる団体を目指して、真岡市をはじめとした芳賀地域で活動している市民活動団体が実施する多様な事業に関わることで、多くの市民が市民活動の魅力に気づき、参加を促す契機とする。

本年度も市民活動団体のBCPに対する研究・意識調査などに協力する予定であったが、活動がなかったため実施されなかった。

市民活動団体への協力としては、「はが路100km徒步の旅」での調理ボランティアとして事業に協力した。

事業協力 実施概要

実施日	協力先	会 場	内 容	備 考
8/21	はが路100km徒步の旅 実行委員会	二宮コミュニティセ ンター調理室	調理ボランティア(カ レー等の調理)	

#### D. 真岡市市民活動推進センターの管理運営

真岡市市民活動推進センターの指定管理期間4期目の初年度であり、センター開設から17年目を迎えた。社会的にも、新型コロナウイルス感染症による自粛ムードは消え去り、様々な活動が活性化する年となった。当センターでもこらぼ～れフェスティバルをふれあいフェスティバルと合同で開催するなど、市民活動理解を推進するとともに、賑わいを作ることができた。以下に事業の結果を示す。

## 令和6年度 真岡市市民活動推進センター 指定管理業務 実施概要

### 1. センターの利用等に関すること

- ・団体・個人登録の状況は、それぞれ 221 団体（前年比+3）、99 名（前年比-7）であった。
- ・利用者総数はおおむね横ばいで、ミーティングルームの貸し出しについては、夜間の利用が減ったため、減少している。また、ミーティングルームが埋まって利用できないとの声から、二宮分館・市民協働推進室と協議し、予約で埋まっていた際に利用できる分館会議室の減免制度を 4 月から開始し、12 件の利用が見られた。
- ・活動展示の場である「こらぼひろば」については、ほぼ毎月実施することができた。
- ・ロッカーは定数を、メールボックスは定数の大部分が利用された。

### 2. 情報収集・提供

- ・広報誌「コラボ！」を、例年通り発行した。（1,000 部）
- ・ウェブサイト、SNS 等によるオンラインによる広報強化を図った。
- ・「もおかインフォ」や「Weekly news」、広報もおか等においてセンター事業のお知らせや報告を継続して行ってきた。また、FM もおか等でも登録団体やセンターの活動を発信してきた。
- ・利用者アンケートを実施し、施設等の満足度の他、次年度の視察研修地の投票と、センターの広報についての質問を実施した。また、活動状況や令和 6 年度の実施活動についての確認と団体の基礎状況についても回答いただいた。回答率は団体 34.6% (75/217)、個人 15.9% (16/102) だった。アンケートによる登録変更あるいは廃止の対応では、本年は 9 団体の登録変更、1 団体及び 3 名の登録廃止につながっている。
- ・関係機関との交流として、外部の研修や会議等への出席や事業への協力、取材などを行った。

### 3. 相談等への対応

- ・相談対応は 48 件で、多くは登録団体からの相談（41.0%）で、内容は「団体・人・活動」に関する相談が最も多かった（42.0%）。

### 4. 研修会、講座の実施

- ・一般市民向け事業としては、「コラボ茶話」（全 8 回）、「クリーンボランティア」（全 7 回※1 回は中止）、「協働理解促進講座」（全 1 回）、「高校生ボランティア体験事業」（通年）を実施した。
- ・センター利用者や市民活動団体に向けた事業では、「こらぼ～れフェスティバル」（全 1 回）、「ふれあいフェスティバル」と同日開催、「スキルアップ講座」（全 5 回）、「ボランティアコーディネート講座（短期集中型ボランティア参加プログラム「マチワカシ」）」（通年）を実施した。
- ・普及・研究事業では、広報誌の発行の他、「視察研修（茂木町）」（全 1 回）、「活動の場再調査」（通年）を実施した。また広報強化事業として広報戦略指針を策定し、今後のセンター広報の方向性を打ち出した。
- ・その他事業については、「ミーティングルーム大掃除」（全 1 回）を実施した。

### 5. 交流促進のための事業

- ・市民・企業・行政へ投げかけられた事業としては、「推し街ボランティア」や「マチワカシ」、クリーンボランティア、「こらぼ～れフェスティバル」が挙げられる。

- ・利用者間の交流事業として、「ふれあいフェスティバル＆こらぼ～れフェスティバル」にて、利用者同士がつながりを持てる機会を創出することができた。また事務所内でボランティアサロン活動を試験的に進め、交流を踏まえた活動を実践することができた。
- ・登録団体や個人の活動紹介の場である「こらぼひろば」では 10 回の展示を実施した。

## 6. 関係機関との協力・連携に関すること

- ・所管課の市民協働推進室と連絡調整を行いながら、必要な事項についてはその都度協議を行い、対応した。特にボランティア体験事業「推し街ボランティア」を共催し、自治会や高校生をつなげることができた。
- ・二宮分館とも連絡交換をしながら、必要な事項についてはその都度協議を行い、対応した。また「真岡市二宮コミュニティセンター消防訓練」に参加し、コミュニティセンター各部署との有事の際の対応について共有した。
- ・その他、市役所各部署や市社会福祉協議会等の市内機関や県内の他の市民活動支援機関・行政等、県内外の市民活動団体とつながることで、情報の共有などを行うよう心掛けた。
- ・令和 5 年度より継続して令和 6 年能登半島地震の義援金募金箱を設置し、1,106 円を中央共同募金会へお渡しした。

## 7. センター内庶務

- ・書類や物品管理について、台帳や規約をもとに管理を進めた。
- ・会計業務、給与・労務管理の健全運営のため、システム、人員の調整に努めた。
- ・施設内の環境美化のため、毎日開館直後の掃除を継続した。
- ・勤務シフトの管理を行い、法令に準じた勤務体制の構築を目指した。

## E. フードバンクに関する事業

本年も真岡市内でのフードバンク活動の促進のため、「NPO 法人フードバンクうつのみや」の協力を仰ぎながら活動を進めている。企業等との協働により、寄付ボックスの回収や入れ替えた防災備蓄品の提供などを受けた。また、個人や市民活動団体からの寄付も大きな比重を占めた。

令和 5 年度に引き続き、生活困窮者へフードバンク事務所で食料品提供を実施した。令和 6 年度フードバンク活動団体支援事業費補助金（県補助金）を活用し、「第 4 回食料品配布会」を真岡市社会福祉協議会のご協力のもとで、また「まめっこ食堂での配布会」をまめっこ食堂実行委員会のご協力のもとで、それぞれ実施した。これらの活動を通じて、生活に困窮している方々への支援と、私たちの活動の広報を行った。大産業祭では、本年も真岡市社会福祉協議会と共にフードドライブを実施するとともに、フリーマーケットへの出店も行った。

連携している「NPO 法人フードバンクうつのみや」の開催する「第 12 回チャリティウォーク」にも参画し、食品の寄付や活動資金を集めることができた。

また、コラボーレもおか主催の高校生ボランティア体験「推し街ボランティア」において、のべ 10 名の高校生を受入させていただいた。参加した 1 名が、事業後も継続して活動に参加してくれており、若手ボランティア受け入れのよいきっかけとなった。

### フードバンク事業 実施概要

フードバンク運営	
日 時	通年（随時寄付ボックスの回収及び食品の SOS 配布）
提供元	市内及び市外スーパー・マーケット、真岡市、FB うつのみや、個人、団体等
提供先	個人、市内各種施設、真岡市、真岡市社協、配布会
提供物	食料品（米、レトルト食品、カップ麺、調味料、野菜 等）：4,950 kg

### 配布会 実施概要

開催日	会 場	配布数	備 考
① 2/8	真岡総合福祉保健センター	150 名分	県補助金、真岡市社協協力
② 12/27・1/24	まめっこ食堂	100 名分	県補助金、そらまめ食堂協力

### フードドライブ 実施概要

開催日	会 場	寄付	備 考
① 11/23	大産業祭（真岡市青年女性会館）	食品・日用品	真岡市社協と共に

### チャリティウォーク 実施概要

開催日	開催地	実施内容	備 考
10/6	日光コース	チャリティウォークの主催者側スタッフとして参画しながら寄付を募る	寄付金 102,092 円を受取る

## F. 福祉事業所運営事業

令和 3 年度から、当法人で事業を継承し、事業所の継続と組織基盤づくりの支援を行っている「多機能型事業所そらまめ」では、引き続き就業継続支援 B 型事業所「そらまめ食堂」と生活介護「アトリエファーベ」の 2 本の柱で事業を進めている。

事業所の運営だけでなく、令和 3 年から始まった子ども・地域食堂「まめっこ食堂（主催：まめっこ食堂実行委員会）」への協力や、令和 7 年 1 月に開設した真岡市複合交流拠点施設 monaca 内でカフェ（monacafe そらまめ）をオープンし、経営することができた。

中間支援としては、こども食堂への協力や新しい事業所の設置等に関わってきた。一方、中長期の目線で計画づくり等は進んでいないため、新しい事業所での活動を踏まえ、一緒に作っていくことが課題として残った。

### 多機能型事業所そらまめ（就労継続支援 B 型・生活介護） 実施概要

1. 個別支援計画と計画相談
<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のニーズに沿った個別支援計画の作成</li> <li>部門会議の定着により計画が現場の職員とより共有できた</li> <li>モニタリング時にも現場の職員に同席してもらった</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門員と個別支援計画を共有できるようになった</li> </ul>	担当…サービス管理責任者・主任支援員
<b>2. そらまめ食堂・そらまめ工房（就労継続支援B型）の支援</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・monaca オープンによって利用者の仕事の幅が広がった。</li> <li>・monaca 統括責任者によるマナー講習の実施。</li> <li>・新店舗に向けての準備を始めた。</li> <li>・施設外労働の定着（ソワカフェ・豆三）。</li> </ul>	利用者数：13名 担当…目標工賃達成支援員・作業指導員・生活支援員
<b>3. アトリエファーベ（生活介護）の支援</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者さんへの言葉かけは基本的に受容と共感の姿勢を心がけた。</li> <li>・避難訓練の実施。</li> <li>・生活介護の利用者にも労働体験をしてもらった（弁当販売、ゴミ捨てなど）</li> <li>・月一で調理の日を実施し事業所内の希望者の昼食にした。</li> </ul>	利用者数：5名 担当：生活支援員・看護師
<b>4. 余暇活動・生活支援</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会活動は、1年を4期に分け、全利用者がどこかに入り担当制にしたため、全員が企画から参加できるようになった。それぞれ個性豊かな活動日となった。</li> <li>・避難訓練を生活介護は毎月、B型は半年に一度行った。 担当：生活支援員</li> </ul>	
<b>5. 食堂運営</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・厨房会議の開催（月ごと）。</li> <li>・食材の高騰でいかに安い野菜でうまく調理するかを考えた。</li> <li>・土曜日の「みはなやランチ（監修：合同会社みはなや）」の人気が出てきた。</li> </ul>	
<b>6. 職員研修</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間10回の研修に参加。</li> <li>・きょうされん※全国大会（滋賀県）に職員3名利用者1名が参加した。</li> </ul>	※旧称：共同作業所全国連絡会
<b>7. 地域活動・外部団体との協働</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館プロジェクトでは、真岡女子高JRC部の生徒が中心となり、子どもたちと一緒にボッチャのイベントを開催。そらまめの利用者は受付を担当する。</li> </ul>	担当4人（うち2名利用者）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども地域食堂「まめっこ食堂（主催：まめっこ食堂実行委員会）」を年間24回協力。フードバンクもおかとともに事業の協力ができた。</li> <li>・その他の外部団体との協働…真岡まちづくりプロジェクト、きょうされん、KTU（県内の10か所の事業所が集まり自主研修をする集まり）、真岡商工会議会、とちぎりトルベビーサークル、真岡市社会福祉協議会、真岡女子高JRC部、TAM（とちぎアートサポートセンター）と一緒にたくさんの取り組みができた。</li> </ul>	
<b>8. そらまめ建設委員会</b>	
令和5年に土地の確保ができ、いよいよ令和6年度中に一部完成し、4月の転居を目指している。新店舗のオープンは令和7年6月予定。	